

山は捨てられない

益田ルポ 下

西中国山地の後継が連なる益田市美都町仙道の蛇ノ久保集落。七世帯、十一人が暮らす集落の民有林で始まった地籍調査の境界確認（一筆地調査）は、山林所有者三人の記憶が薄れて難航した。

戦後の混乱期を抜け出し、木炭需要や木造家屋需要が一気に膨らんだころ、山林は集落に潤いをもたらした。

「ムラの宝」だった。手入れの行き届いた美林四季を彩り、境界線上に沿って狭い間隔で植林する「寄せ植え」も見られた。高度成長期の終焉を境に、林業は斜陽化の一途をたどる。輸入材の攻勢も加わって、山林価値は大幅に下落。満ち潮が引くように所有者の山離れが加速し、不在地主の増加も誘発した。



一筆地調査

登記簿に記載された一筆ごとの土地情報と切り図を調べた後、調査地に出向き、土地所有者ら関係者の立ち会いのもとで、所有者、地番、地目、境界を調べる。

一筆地調査後は、測量（各筆の面積など）→作成された地籍簿と地積図の閲覧（期間は20日間）→認証（都道府県知事が審査）→法務局へ送付の手順を踏む。

この特集は4回シリーズで掲載します
企画・山陰中央新報社

境界確定の調査完了まで、100年以上の歲月

蛇ノ久保集落出身で他界した両親から山を相続し、地籍調査に立ち会ったため、浜田市からミニバイクで駆け付けた加藤一樹さん（60）は、荒れてしまった山を目の当たりにして、嘆くしかなかった。

「58豪雨」で一変し、どこがうちの山なのか、見当もつかない。県西部を襲った一九八三年の豪雨に触れながら、険しいV字谷で境界の手掛かりを求め、境界線を打つ一筆地調査に四時間近くを費やした。

とはいえ、山林所有者の山への愛着は強い。つえを突いて境界確認に立ち会った野村保さん（77）は「この歳では何もできないが、山だけは捨てられん。集落に豊かさをもたらしたかつての宝が再生することを願う。益田市地籍調査推進課によると、



山林所有者の立ち会いで境界を確認する高津川森林組合職員
|| 益田市美都町仙道



境界を確認後目印を設置する高津川森林組合の職員

今春から組織を強化し、地籍調査を加速させている花本国雄・市地籍調査推進課長は「山林の境界確定がいかに重要な意味を持つのか、幅広い市民に理解してほしい」と訴える。

球温暖化や災害防止、水資源確保といった森林の持つ多面的な機能への期待感が増すばかり。暮らしの安心・安全への希求を満たすため、山林保持は急務になってきている。

一九五一年から全国で始まった地籍調査で、なぜ、益田市の進捗が遅れているのか。背景には、未整備の生活基盤整備に追われ、山林に目を向けるだけの財政的な裏付けがなかったという地域事情がある。

しかし、時代は変わった。地球温暖化や災害防止、水資源確保といった森林の持つ多面的な機能への期待感が増すばかり。暮らしの安心・安全への希求を満たすため、山林保持は急務になってきている。



立松和平 (作家)

法隆寺の材

法隆寺大工と話し、千三百年前の法隆寺の古材を手斧で削れば、まるで新しいような木の香りがぶんとするということを開いた。また法隆寺に使われている材はことに木目が細かく、固いということだ。

古代は遠くから木を伐採して運んできたわけではないから、近隣にこのような木の森が沢山あったのだ。材を得るのに、それほど苦労をしなくて済んだとも思われるのである。

飛鳥時代には、節でもなんでも切りとばしていく鋸などあるはずもない。それなのに、法隆寺の伽藍を形成する主な柱は、ほとんど四つ割りである。これは材の性格をそのまま生かすため「木なりに」割れるようにするということだ。無理に木をいじるわけでもない。

新しく復元された建物では、しばしば気の毒なほどひびが入っている柱を見ることがある。

樹齢千年を超えるような檜材を四つ割りにする技術が、現在では伝わっていない。こうすればよいとわかっていながら、そのやり方がわからない。そんな大木を建築資材にするというこ

プロフィール
立松和平（たてまつわづる） 1947年栃木県生まれ。早稲田大学在学中に「自伝体」で早稲田文学新人賞。宇都宮市役所勤務後、79年から文筆活動に専念。80年「遠雷」で野間文芸新人賞。97年「霧」で田中正造賞。毎日出版文化賞。最近の小説「霧」は、山陰・鳥取・天童四郡「軍曹が眠る」が舞台。ワッセイ、絵本も手がける。

森林保全活動レポート



「みんなで楽しい森づくり」がモットーです。

出雲市 林業振興協議会
1983(昭和58)年に設立。林業家や森林所有者を中心に、地元出雲地区の枝打ち、間伐などの作業のほか、長年の活動で培われたネットワークやノウハウを駆使して、県内各地の植林活動のサポートや、クヌギの直播き実験、間伐材の染色実験など、幅広い活動を行っています。
連絡先は、
〒693-0033 出雲市知井宮町75-2 伊藤さん迄
TEL&FAX 0853-22-1849

- 森林を守ろう! 山陰ネットワーク会議 参加団体のみなさん (9月20日現在)**
- 鳥取県 NPO法人 賀露 おやじの会(鳥取市) NPO法人 サカズキネット(倉吉市) NPO法人 とっとり希望化計画21(鳥取市) 広葉樹文化協会(鳥取市) 財団法人 南部町地域振興会(南部町) 杉の學・吟醸の会(智頭町) 大山横手道上ブナを育成する会(米子市) 鳥取県木造住宅推進協議会西部支部(米子市) 鳥取市女性の森グループ(鳥取市) トリネット(米子市)
 - 日野川の源流と流域を守る会(日野町) 丸山生産森林組合(伯耆町) 三朝温泉かじか蛙保存研究会(三朝町) 森つ子倶楽部(鳥取市) 島根県 出雲市林業振興協議会(出雲市) NPO法人 緑と水の連絡会議(大田市) NPO法人 もりふれ倶楽部(松江市) 源流の森里山づくり(邑南町) 財団法人 島根県西部山村振興財団(浜田市) 里山を育てる会(松江市)
 - しまねフォレスト・ネットワーク出雲(出雲市) 薪ストーブ同好会(松江市) 松江ネイチャーゲームの会(松江市) 木質バイオマスエネルギー地産地消ネットワーク(松江市) 森の仲間(出雲市) 遊木民倶楽部(益田市) 特別協賛 山陰中央新報社 日本海新聞社 特別協力 凸版印刷株式会社

プレゼント
山陰の間伐材を利用した紙容器入り **ドリンクプレゼント**
連載しています。特集・広告に関するご意見等を郵便またはFAXで募集しています。抽選で20名様に「間伐材を利用した紙容器入り飲料」(提供ポッカコーポレーション/250ml入り・24本)をプレゼントします。ご意見をお送りいただく際にお名前、郵便番号、ご住所をご記入ください。締め切りは11月30日消印有効。なお当選者の発表は商品の発送をもってかえさせていただきます。※ご記入いただいた個人情報等はプレゼントの発送のみに使用させていただきます。
〒690-0062 松江市魚町10 山陰合同銀行 地域振興部内 「森林を守ろう!山陰ネットワーク会議」プレゼント係
TEL.0852-55-1820 FAX.0852-28-0495

豊かな緑を子どもたちの未来へ! 森林を守ろう!山陰ネットワーク会議

山陰の森林に関する活動を展開しているNPO法人やボランティア団体を中心にネットワークを構築し、森林保全の輪を広げる活動を展開します。

島根県出雲市にある鼻高山(はなたかせん)の中腹。霧におおわれた穴道湖が朝日を浴びて徐々にその姿をあらわす頃、出雲市林業振興協議会の皆さんは、テキパキと下草刈りを始めました。「森に関心をもつメンバーが長年やっていますから、楽しいもんですよ。特にここは、出雲市の高浜小や第三中の生徒が植林したところだから、作業にも力が入ります。」会長の寺本節裕さんをはじめとするメンバーの方々は、あふれる笑顔でこたえてくれました。



今年6月の定例会では、植林したの広葉樹の芽を食べる野生鹿の実態を視察しました。

今後の活動予定 (参加は自由です)
11月3日(金)出雲市所原町の朝山コミュニティセンターで、所原町内の森林所有者を対象に経営説明会を実施。無料で「所有林の健康診断」も行います。

この広告に関するお問い合わせは事務局まで
山陰合同銀行 地域振興部内 島根県松江市魚町10 〒690-0062 TEL.0852-55-1820

